

多摩よこやまの道

万葉集に「多摩の横山」と詠まれた多摩丘陵の尾根部に位置し、全長は約 10km におよびます。平成 27 年には、新日本歩道紀行 100 選「歴史の道」にも認定されました。

道の途中には、多摩市域を一望でき、天気が良ければ富士山まで望める「防人（さきもり）見返りの峠」や多摩ニュータウンの街並みを見渡せる「展望広場」などの眺望ポイントのほか、随所に四季折々の自然を楽しむことができる自然観察ポイント、史跡や伝説などの歴史ポイントなどがある見所満載の散策コースです。

歴史の流れを知る古道を歩む

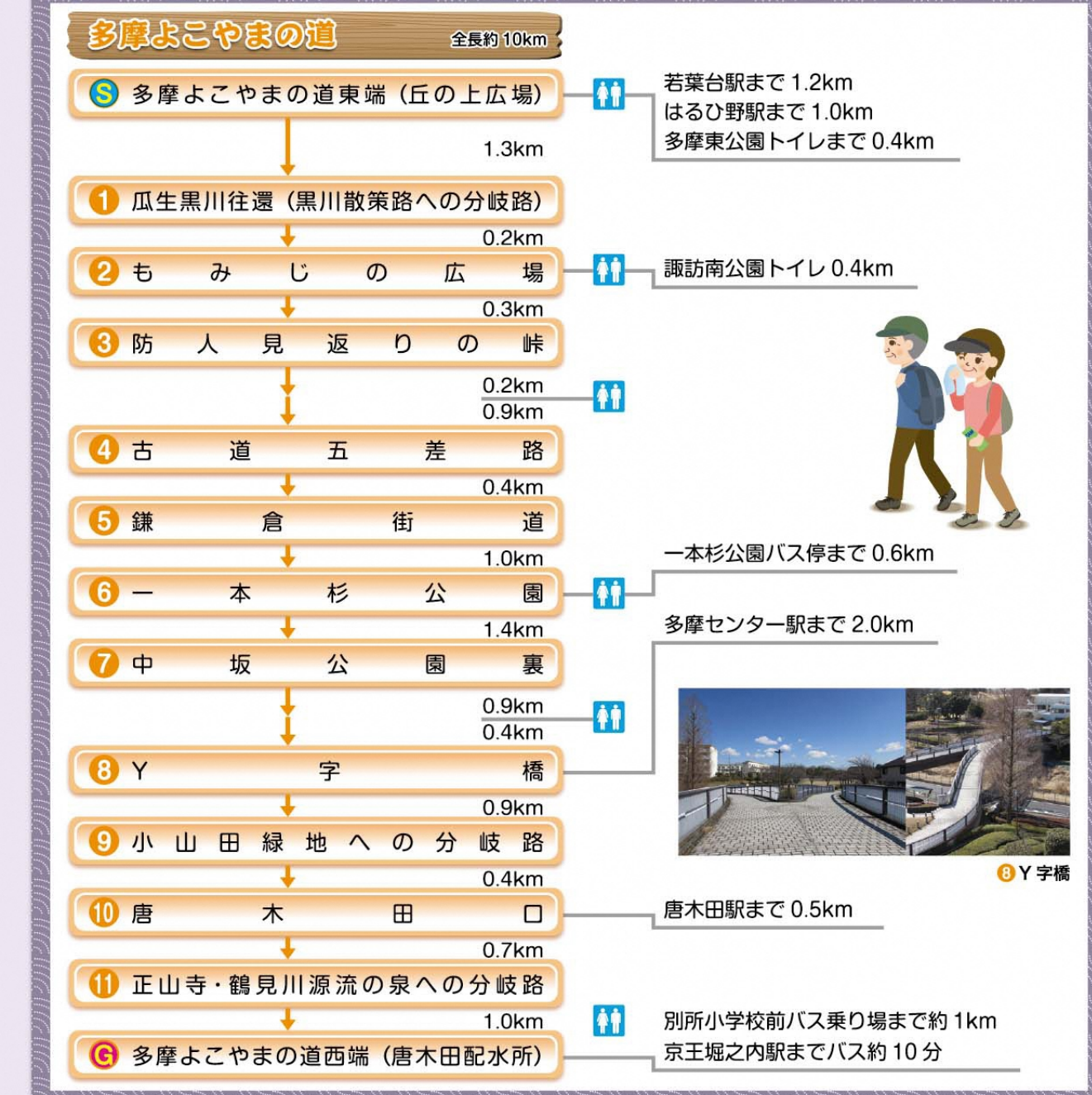


歴史文化の道 ～多摩ニュータウンの尾根筋～

「多摩よこやまの道」の位置する尾根筋は、古代より武蔵野と相模野の双方を眺められる高台として、また西国と東国を結ぶさまざまな交通の要衝として活用されてきました。

この尾根筋には、鎌倉古道（鎌倉街道早ノ道、鎌倉街道上ノ道、軍事戦略鎌倉道）や奥州古道、奥州廃道、古代の東海道、などの重要な歴史街道（古街道）が縦走、横断し、その痕跡やさまざまな伝説が語り継がれています。

古代から中世～江戸時代にわたって政治、軍事、文化、産業、社・霊地参詣などを目的として、東国～西国間の交易を行なう商人や鎌倉武士団、諸国霊場を行脚する巡礼者や都の貴人、新選組が行き来したと推測され、歴史とロマンを感じることのできる道となっています。



多摩よこやまの道の自然



多摩よこやまの道の由来

「万葉集にも詠われた防人の道」

赤駒を山野に放し捕りにて
多摩の横山徒歩ゆか逢らむ
豊島郡の上ノ下野村野田家集 宇道部良史

この万葉歌は、「赤駒を山野の中に放牧して捕えられず、夫に多摩の横山を歩かせてしまおうのだろうか」という防人の妻の心づくしの歌です。

東国から遠く北九州で国防の兵役につく防人は、再び故郷の土を踏むことはほとんどありませんでした。武蔵野を眺望できる横山の尾根道で故郷を振り返りながら、家族との別れを惜しんだ防人の姿が浮かんできます。

『よこやまの道』はこの万葉歌の「横山」から名づけました。

歴史観察のポイント

- (1) 瓜生黒川往還
川崎市の黒川と多摩市永山の瓜生を結んでいた往還道です。黒川の「黒川炭」や「神寺丸柿」などを八王子方面や江戸市街に運ぶのに使われていました。
- (2) 古代東海道と丸山城
古代東海道は現東海道と異なり、相模国府～武蔵国府間は多摩丘陵道を通っていました。黒川配水場の高台は丸山城とも呼ばれ、古代東海道の物見や狼煙（のろし）台とも考えられます。
- (3) 分倍河原合戦前夜の野営地
鎌倉幕府滅亡の戦で知られる分倍河原の合戦前夜、幕府軍の北条泰家軍二十万騎の大軍勢は、このよこやまの道の尾根で息を潜めて一夜を明かしたと伝えられています。
- (4) 並列する謎の古街道
地図のない時代、現在地や目的地の方向を知るため、旅人は眺望の利く尾根を通りました。よこやまの道の尾根には数本の古道が並行する大規模な古道跡があります。
- (5) 古道五差路
古道が集まっている五差路です。野津田や金井、本町田へと続く古道が通っていました。交通の要衝であった小野路の宿を避けて鎌倉へ向かうことのできる近道の古道だったようです。
- (6) 大軍勢が通った現鎌倉街道の谷
現在の鎌倉街道が通る谷は、南北に伸びた自然の谷です。戦乱の時代には源頼朝や新田義貞、上杉謙信らの大軍勢がこの谷を通過していったと思われます。
- (7) 新選組も通った通称鎌倉倉（裏）街道
鎌倉街道の一つに、関所を避けた通称鎌倉倉（裏）街道があります。後に新選組となる土方歳三や沖田総司らは、日野宿方面から小野路の出稽谷に通うのにこの道を使っていました。
- (8) 奥州古道と石仏群
この付近には奈良や京都の都まで続く「奥州古道（国府街道）」が通っていました。近くには、古道筋にあった石仏たちが集められた石仏群が残されています。
- (9) 古戦場伝説
鎌倉幕府を滅亡に追い込んだ新田義貞鎌倉攻撃めの古戦場の一つがこの付近です。近くには戦の犠牲者を弔った塚や戦に関わる伝説が残されています。
- (10) 奥州廃道
『よこやまの道』には東北へ向かう「奥州廃道（最も古い奥州古道）」が通っていました。源頼朝の祖父の頼義、義家の奥州征討伝説のある神社（大國魂神社、百草八幡宮、箭柄八幡宮）はこの古道筋にあります。
- (11) 小山田氏
平安時代、『よこやまの道』のあたりは朝廷管理の馬の牧場で、奥州古道を使って馬を運んでいました。小山田氏はこの牧場を経営する長官（別当）として秩父から赴任してきた一族でした。

